



統計から社会の実情を読み取る

第10回 アジア人の食

本川 裕 | Honkawa Yutaka

アルファ社会科学(株)主席研究員

■東京大学農学部農業経済学科卒。(財)国民経済研究協会常務理事研究部長を経て、現職。立教大学兼任講師。農業、地域、産業、開発援助などの調査研究に従事。現在は、ネット上で「社会実情データ図録」サイト (<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/>) を主宰するかたわら地域・企業調査等を行う。著作は「物流コストと日本の産業競争力」(学術誌『国民経済』、2004年)、『統計データはおもしろい!』(技術評論社、2010年)等。



アジア人の好きな食べもの

アジアへの観光旅行の中で現地料理を食べる機会が増え、またアジアの食事情を紹介するテレビ番組も多いため、アジアの食への関心は非常に高くなっている。

そこで、少し調査年次は古いが、政治学者の猪口孝主導で継続的に行われたアジア全域対象の世論調査「アジア・バロメーター」の結果から、アジア人の好きな食べものやアジア人の食事スタイルについてのデータを示すことにする。

まず、アジア7か国の国民の好きな食べものについての調査結果を見てみよう(図1)。

好きな食べもののトップ回答を見ると、各国とも異なっており(共通は、中国と台湾の北京ダックのみ)、それぞれ、自国特有の食べものにこだわっている様子が明らかである。

ただ、トップ回答の食べものの回答率のレベルには、かなりの差がある。

トップ回答の食べもののうち、最も回答率の高いのは、日本の寿司の86.5%であり、これに

ベトナムのフォー、80.5%が続いている。国民の8割以上が好きだと言っているわけであるので、国民食的な性格が濃厚であると言ってよい。

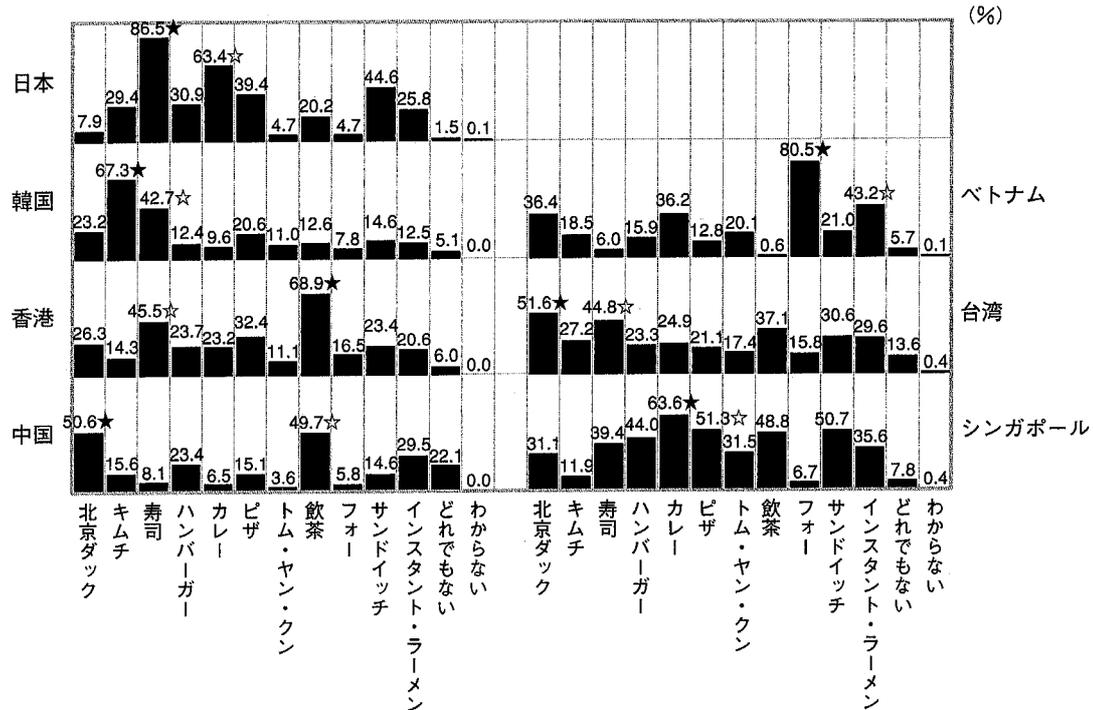
他方、トップ回答であっても、回答率自体はそれほど高くないケースとしては、中国、台湾の北京ダック(50%程度)がある。中国では2位の飲茶、台湾では2位の寿司との差は余り大きくない。これは選択肢として選ばれた北京ダックが中国料理の代表としては少し弱いせいであろう。北京ダックと、選択肢としては選ばれていない棒棒鶏、マーボー豆腐、ピータン、フカヒレ、上海蟹などとの差は大きくない。そのためか、中国、台湾では「どれでもない」がそれぞれ、22.1%、13.6%とその他の国に比べ格段に多くなっている。

その他の国は、トップ回答の食べものが60%台となっている。香港の飲茶(68.9%)、韓国のキムチ(67.3%)、シンガポールのカレー(63.6%)である。

シンガポールでは、マレーシアのゴム農園労働者出身の南インド系住民が多く、南インド風

図1 アジア人の好きな食べもの(2006年)

次の食べものうち、好きなものはどれですか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも)



注) ★はトップ回答、☆は2位回答。調査は、全国の20～69歳男女(ベトナムは都市部のみ)が対象。サンプル数は各国1,000人(ただし、中国は2,000人)。層化多段階無作為抽出。面接調査。
資料) AsiaBarometer HP (<https://www.asiabarometer.org/>)

カレー料理が自国料理の一つとして定着している。

このように各国には特有の食べものがあるが、それが、どれだけアジア・ワイドに受け入れられているかという、食べものにより差がある。

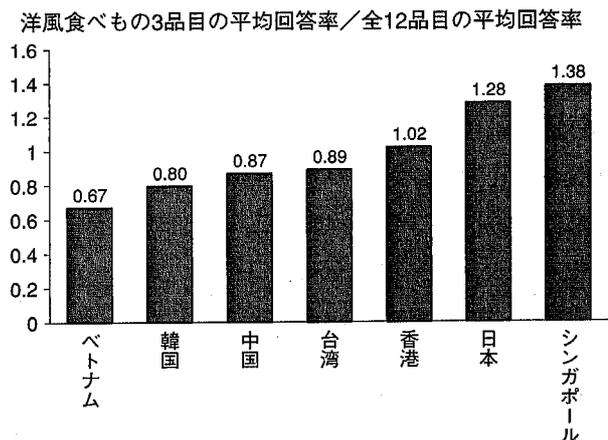
1位となった国以外では余り人気のない食べものの代表はフォーである。ベトナムでの人気とそれ以外の国での回答率の低さが対照的である。

アジア・ワイドの人気は、どれだけ多くの国で2位回答の食べものとなっているかで測れる。こうした意味での人気度ナンバーワンは寿司である。寿司は、韓国、香港及び台湾の3か国で2位回答となっている。他の食べもので複数の国で2位となっているものはない。

選択肢の中には、ヨーロッパ起源の食べものが三つ含まれている。すなわち、ハンバーガー、

ピザ及びサンドイッチである。これらを好きだとする回答率の平均を全部の食べものの回答率の平均で割った値を洋風化指数と名づけ、算出した結果を図2に示した。

図2 食べものの洋風化指数(2006年)



注) ここで、洋風食べもの3品目とは、ハンバーガー、ピザ及びサンドイッチをさす。
資料) 図1と同じ。

1を超えていれば、自国料理を含めたアジアの食べものより、洋風食べものの方をより好んでいることとなる。図2を見ると、シンガポールが1.38で最も洋風趣味となっており、日本、香港がこれに次いで、1以上となっている。シンガポールではカレーに続いてピザが2番人気となっている点にも、こうした傾向があらわれている。逆に、最も洋風化から遠いのは、ベトナムの0.67であり、少し意外であるが、韓国が0.80でこれに次いでいる。

日本で生まれたインスタント・ラーメンは、結構、アジア・ワイドで人気がある。日本でインスタント・ラーメンが好きと答えた者は25.8%と4分の1に過ぎないが、最も回答率が高いベトナムでは43.2%とフォーに次ぐ地位を占めている。また、日本以上にインスタント・ラーメンが好きと言っている国には、ベトナムの他、シンガポール、台湾、中国と4か国にのぼっている。

キムチは、韓国の他、日本や台湾で人気が高い。また、調査対象国にタイが入っていないのでトップ回答の食べものにはなっていないが、トム・ヤン・クン（フランスのピヤベース、中国の酸辣湯とともに世界三大スープの一つとされることもある）は、シンガポール及びベトナムで人気が高い。やはり、隣接する地

域には食文化が染み出す傾向があると考えられる。

アジア人の食事スタイル

次に、どんな食事をどこでしているのかに関するアジア12か国の朝食・夕食のスタイルのデータを取り上げる（図3）。図4には同じデータからアジアの食スタイルの特徴を整理した。

図3 アジア人の朝食・夕食のスタイル

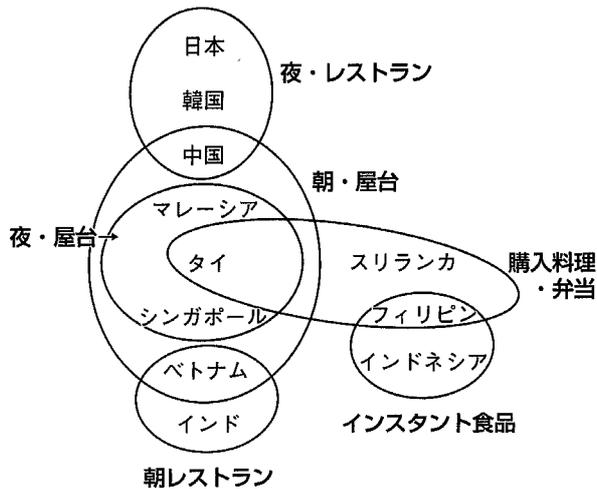
あなたの普段の食事は、次のうちのどのタイプに当てはまりますか。
主なものを二つまでお教え下さい。

(%)

国名 (サンプル数)	朝食							夕食								
	自宅食			外食				自宅食			外食					
	自宅料理	購入料理・弁当	インスタント食品	レストラン	屋台	その他	食べない	分からない	自宅料理	購入料理・弁当	インスタント食品	レストラン	屋台	その他	食べない	分からない
日本 (825)	91.8	5.0	6.8	2.1	0.2	0.6	6.1	0.0	97.6	11.8	5.5	33.3	0.6	0.5	0.1	0.0
韓国 (819)	85.7	2.9	9.3	3.9	2.1	0.2	9.0	0.4	88.5	4.0	4.6	32.2	2.6	0.4	0.5	0.4
中国 (1000)	78.2	25.7	18.0	18.4	46.1	4.9	6.1	0.1	94.9	34.4	12.3	45.7	6.2	5.4	0.0	0.1
マレーシア (800)	78.5	16.8	1.9	3.8	29.0	1.9	1.0	0.1	90.6	8.6	0.6	6.0	21.4	0.8	0.2	0.0
シンガポール (800)	73.2	21.8	4.9	2.6	47.9	9.9	6.8	0.8	84.5	22.6	3.0	7.8	47.9	7.1	0.6	0.6
タイ (800)	80.9	48.1	6.8	0.6	22.0	2.2	6.9	0.0	86.4	49.9	6.0	2.0	23.5	1.1	0.6	0.0
ベトナム (800)	47.5	24.9	22.4	34.9	28.6	0.4	3.5	0.0	96.6	10.0	7.2	13.0	7.0	0.1	0.4	0.0
フィリピン (800)	96.4	32.8	42.1	7.0	7.0	0.0	3.4	0.0	97.4	37.2	32.0	10.4	7.9	0.5	1.8	0.0
インドネシア (825)	94.5	13.7	27.4	0.5	10.1	0.0	4.8	0.0	96.2	16.0	22.1	1.1	11.9	0.0	2.3	0.0
スリランカ (800)	87.6	31.6	6.1	4.9	1.4	1.1	0.0	0.0	94.8	15.9	5.5	4.1	0.5	0.5	0.0	0.0
インド (822)	97.0	12.7	3.5	21.8	4.9	0.4	0.0	0.0	85.4	12.4	2.6	21.2	8.4	0.9	5.6	0.0
ウズベキスタン (800)	97.1	5.4	21.1	5.2	3.2	2.8	1.1	0.0	96.9	4.5	16.9	15.1	2.5	4.0	0.2	0.0

注) 2004年調査の結果。ただし、スリランカ、インド、ウズベキスタンは2003年調査の結果。資料) 図1と同じ。

図4 アジアの食 ～特徴的なスタイル～



自宅で自宅料理を食べる通常の食事スタイルは、どの国でも最も多くなっている。しかし、朝食では、自宅で自宅料理を食べる割合が低い国もある。ベトナム、シンガポール、中国、マレーシアでは8割を下回っており、特にベトナムでは50%以下である点が目立っている。

ベトナムでは、朝食を、購入料理・弁当（お店・屋台などの料理や弁当を持ち帰り自宅で食べる）やインスタント食品の自宅食、レストランや屋台での外食で済ますといった多様なスタイルを持っている。ところが、夕食に関しては、ベトナムでも自宅料理の自宅食が中心である。

日本では「夜はときどき家族でレストラン」というのが一般的であるが、このスタイルはアジアの中では日本、韓国、中国の特徴であり、アジアのそれ以外の国では、インドを除くと、そう普及しているスタイルではない。むしろ、ベトナムやインドでは夜よりはむしろ朝の方が、レストランで外食という傾向がある。もっともこの場合は、レストランといっても簡易な食堂が多いのではないかと考えられる。

アジアの特色は、やはり屋台食である。屋台食といっても「朝だけ屋台食」（中国、ベトナム）と「朝も夕も屋台食」（マレーシア、タイ、シンガポール）という二つのパターンがある。

シンガポールでは、朝夕とも非常に多くの人（5割近く）が屋台を利用しており、アジア随一の屋台大国の名に恥じない結果である。もっとも、シンガポールは都市国家なので高い数字が出ている面もあり、首都だけのデータをとれば、タイやマレーシアでも屋台食の比率はもっと高くなるだろう。

この他、タイ、フィリピン、スリランカ（朝食のみ）では、買ってきた料理・弁当の自宅食が目立っている。また、フィリピン、インドネシアはインスタント食品好きである。インドネシアでは、即席麺の一人当たり消費量が世界の中でも韓国に次いで多くなっている（図録0445参照）。

このように、アジア各国はそれぞれ特徴のある多様な食事スタイルを持っている点が印象深い。

なお、多くの国で、朝食を食べないケースが一定程度以上の割合となっている。朝食を食べないという回答は韓国で9.0%と最も多い。多忙が理由であろう。他方、インドでは朝食を食べないケースがこの調査ではゼロである一方で、夕食を食べないケースが5.6%とかなりある点が目立っている。貧困が食べない理由だとすれば朝食を食べない人もある程度いるはずなので、むしろ、夕食より朝食を重んじる食事スタイル、あるいは宗教上の理由等で夕食は食べない食事スタイルの人がいるのではと考えた方が適切であろう。

* 「社会実情データ図録」関連図録

- [1] 図録0445「インスタントラーメン（即席麺）消費量の国際比較」
- [2] 図録8035「アジア人の好きな食べもの」